



図139 沙山遺跡の地層断面  
ずんだ砂層が中世の地層  
やや下半の黒



図138 遺跡の位置  
5万分1地形図「弥彦」

沙山遺跡 西蒲区角海浜

沙山遺跡は、角田山西麓の海浜の集落であった角海浜の中央にある。角海浜には、江戸時代初期から昭和二十七（一九五二）年まで真宗寺院の城願寺があり、昭和五十八（一九八三）年に巻原子力発電所の建設計画に伴い、巻町教育委員会が寺院跡の発掘調査を行った。沙山遺跡は、この調査時に、寺院よりも古い時代の

状況を確認するために行った深掘調査で見つかった。幅二メートルの発掘溝で行った深掘面積は延べ二二〇平方メートルほどである。現在、遺跡は松林になっている。

深掘調査では、寺院跡の下から真つ黒な砂層が見つかり、十三世紀〜十五世紀の中世の遺物がたくさん出土した。寺院跡が一辺一〇〇メートルほどの平坦な地形であるのに対して、中世の地層は南西に大きく傾いており、寺院を建てる時に大規模な造成がされたことも分かった。深掘面積が限られていたため、沙山遺跡の全体範囲は明らかでなく、南北七〇メートルほどの広がりか推定できるだけである。

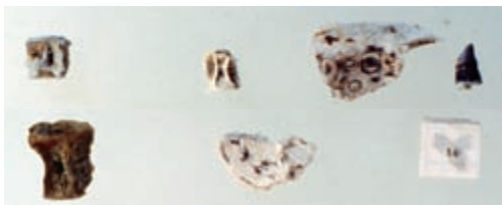


図140 魚骨 上段, マダイ 下段, 左からタラ・サメ・イワシ いずれも焼けている



図141 鉄製釣針



図142 釣針のX線写真  
名古屋大学考古学研究室  
撮影

うち釣針は巻町の文化財に指定され、新潟市の文化財に継承されている。

調査では、陶磁器類、銭貨、鉄製の銕はさまみや釣針のほか、いろいろな種類の魚の骨（図一四〇）、炭化した米や大麦などが見つかった。中でも釣針は二二〇点もあり、この遺跡を特徴付ける遺物である。すべて鍛造品で、長さは一・七〜二・六センチメートル、軸の直径は一ミリメートル足らず、半数以上に精巧な「カエシ」が付けられている。釣針のうち一七〇点余りが二メートル四方の範囲から集中して出土したことや、形や大きさが類似することから、延縄はえなわ漁で使われた釣針かもしれない。

沙山遺跡は中世の漁村の跡と考えられる。見つかった様々な遺物は、漁村に住む人々の暮らしの様子を教えてくれる貴重な資料であり、この